

社団法人日本発達障害福祉連盟 2009（平成 21）年度事業計画

I 国際交流事業

1. 開発途上国支援事業

1) 第 5 回地域住民による知的障害支援コースの実施（国際協力機構委託事業）

11 カ国～11 名を招き、日本およびカンボジアにおいて研修を行なう。
研修期間 6 月 8 日～7 月 31 日

2) 地域住民による知的障害支援コース・フォローアップ事業の実施 （国際協力機構委託事業）

3) カンボジア国カンボンスプー、カンボンチュアン、プレイペーン、プルサット地域 で活動する地域住民による知的障害児者支援事業への協力 （外務省補助事業）

4) ブラジル、リオ市のスラム地域における「知的障害者とスラム青年の職業訓練事業」 を波及する事業への協力（国際協力機構草の根支援補助金事業）

5) ワールド・ビジョンによるアゼルバイジャン障害者支援事業への協力

2. 国際交流

1) 第 19 回アジア知的障害連盟理事会参加（シンガポール）

11 月 22—26 日

日本の知的障害者 5 名とインドおよびバングラデシュの各 1 名を会議に送り、アジア会議における本人参加を促進する。また、会議参加ツアー（30 名を予定）を企画する。

2) 国際協力機構事業への協力

在外機関が実施する発達障害者支援関連の事業への協力、相談業務を行なう。

II 関係団体の連携事業

1. 発達障害白書の2010年版の編集

「発達障害は増えているのか」をテーマに編集し、日本文化科学社より出版する。

2. 関係団体によるラウンドテーブル会議の開催

関係諸団体および関係省庁間の意思疎通を目的としたラウンドテーブル会議を年に2-3回実施する。

3. JLニュースの発行

隔月（73-78号）を発行し、関係団体（者）に配布する。

A4版 12ページ 4,000部

4. 福祉月間の実施

第46回福祉月間を9月に実施する。

また、中央集会として「発達障害は増えているのか」をテーマに、東京でシンポジウムを開催する。

5. ホーム・ページの運営

福祉連盟ホーム・ページを運営し、情報の発信に努める。

III 研究・啓発事業

1. 発達障害医学セミナーの開催

200名の定員で大阪にて開催する。

テーマ：アスペルガー障害をはじめとする発達障害について

日程：1月30-31日

場所：大阪医科大学

2. 発達障害自閉症セミナーの開催

150名の定員で東京にて開催する。

日程：12月12-13日

場所：戸山サンライズ

3. 研究事業「発達障害児の保護者のメンタルヘルス 第3年次」を実施する。
(福祉医療機構補助事業)
4. 研究事業「特別な支援を必要とする子供の実態と増加要因、および地域生活に必要な医療・福祉・教育サービスのニーズ調査」を実施する。
(厚生労働省 障害者自立支援調査研究プロジェクト第2年次)
6. 研究事業「発達障害者の退行・早期老化支援マニュアル(仮称)」の作成及び普及啓発事業 (郵便事業株式会社平成21年度年賀寄付金社会貢献事業助成金)

7. 資料の作成・提供

1) 小冊子、書籍等の作成・提供

本年度新規作成	発達障害医学の進歩 21
既成	発達障害訓練ハンドブック 1-4、発達障害医学の進歩 1-19、知的障害の定義 (Mental Retardation : Definition, Classification, and System of Supports-AAMR 10 th Edition)、不平等な命 2、やさしい隣人達、レッツ・スポーツ、同名VTR、知的障害のQOL-21カ国の国際比較-上・下巻、就労支援マニュアル、美沙のポエム、発達障害とその支援 (DVD)

- ##### 2) 推薦図書
- 思春期の発達障害者支援 (DVD)、発達障害の臨床、発達障害の基礎、実践精神医学講義

IV. その他の事業

1. 組織の運営・強化

- 1) 公益法人認定を申請する
- 2) 正会員の拡大
- 3) 準会員の拡大
- 4) 賛助会員の拡大
- 5) 寄付金獲得
- 6) 総会・理事会の開催
- 7) 各種委員会の開催 () 内は委員長 【敬称略・順不同】

企画委員会—会員拡大、広報、福祉月間、出版など—（湯汲英史）

発達障害白書編集委員会（湯汲英史）

発達障害児の保護者のメンタルヘルス研究委員会（原仁）

特別な支援を必要とする子供の実態と増加要因、および地域生活に必要な医療・福祉・教育サービスのニーズ調査委員会（金子健）

発達障害者の退行・早期老化支援マニュアル委員会（菅野敦）

地域住民による知的障害者支援コース企画委員会（沼田千好子）

アジア知的障害会議委員会（谷口奈保子）